

大館の歴史散歩

⑪

城編
最終回

大館地方城館研究の意義

一年にわたって大館市内に点在する城館跡を紹介してきた。それらは大館地方にみられる城郭形態の代表的な例で、保存の状態も良好、文献史料や伝承なども比較的整っているものである。

大館地方比内・田代町も含むでは、これまで四十数カ所の城館跡が確認されている(『大館市史』第一巻、『秋田県の中世城館』)。また、これまでその位置が不明であった「鬼ヶ城」について、その手がかりになると思われる新たな城館跡を発見、本紙で紹介できたことは幸いであった。

これら城館跡の多くは、中世末期から近世初頭にかけて、幾度か消長を繰り返しながら、実質的

に大館地方を支配してきた戦国武将浅利氏とその家臣の居館跡とみえてい。

それらは天然の地勢を利用し、人工の濠をめぐらして防塞施設を整えているが、しかし、ごくわずかの例を除いて、小規模かつ施設も危弱で、攻防の為の城塞といったイメージにはほど遠い。むしろその周辺一帯の開発拠点としての、開発主である在方武士団(浅利家臣としての給地)の、居館跡とみなすべきであろう。

それは浅利氏が城下町を形成することなく「浅利興市待分限」によると、独結城下に幾人かの武士を常住させていたようであるが、城下町としての機能を有していたとは考えられない。家臣団を大館地方の各要所に配置(給地の分

与)していることでも伺える。

このことから浅利氏の支配体制が、農耕地との不分離、武士と農民の未分化、階級制の未分解といった、当時としては経済的、社会的、軍事的な弱点を内包していたことを知ることができ、ひいてはこのことが、浅利氏が近世大名として成長できなかった一つの要因であったと考えられる。

しかし、大館地方の中世社会を解明しようとする際、これら城館跡の研究および、そこから知り得る文化、経済、社会的事象を、第一の手懸りとしなければならぬ。現代にまで続く大館地方の発展の礎は、まさしくこれら中世城館を中心とした、各地域の開発を出发点としていくからである。大館の地に生きてきた人々の姿を明らかにすることは、今後、我々がこの地でどのように生きていくのか、指針となり得るであろう。

(市史編さん室)

図書館

コーナー

～新着図書～

「アイアコッカ

わが闘魂の経営」

(リー・アイアコッカ著

ダイヤモンド社)

イタリア移民の子アイアコッカは、精励努力してフォード社の社長となるが、会長のフォード2世によって突然首を切られる。失意の彼は、倒産寸前のクライスラー社へトップとして請われ、フォード2世に報復すべく、わずか4年で再建を果たす。フォード社での権力闘争、クライスラーでの苦闘の記録は密度が高く、読む者を引きつける。

＜一般書＞

◇いかに木を殺すか(大江健三郎著)◇父親は背中て語れ(邑井操著)◇対談「笑い」の構造(山藤章二著)◇トラブルメイカー(井上淳著)◇綾の鼓(中里恒子著)◇影のプレーヤー(赤瀬川隼著)◇空中の五秒間(内村美代子著)◇明治を彩る女たち(千谷道雄著)◇風の王国(五木寛之著)ほか

＜児童書＞

◇ライオンのジョニーかぜをひく(E・ハード作)◇ゾー・ブックス(J・B・ウェクス編)◇魔女の宅急便(角野栄子作)◇いぬぼえとうげ(高橋宏作)ほか

今月の図書館の休館日は

25日・29日です

車が三度のメシよりも好きな仲間たち、「どんぐりスポーツカークラブ」秋田大館支部は、五十六年に秋田市に次いで結成されました。

現在、会員は二十歳から三十歳までの十五人。秋田市や男鹿市、弘前市などで開かれるJAF(日本自動車連盟)公認のラリー大会などの競技に出場し、数々の優秀な成績をおさめています。ラリーは、一般道路や山道などを指示されたスピードで走行し得点を争う競技で、運転テクニックはもちろん体力や判断力も要求されます。車の競技は歩調違ふと死に繋がるため、会員はどんな状況下でも的確に状況判断をし、確実に車を止めることができるようにと暇

どんぐりスポーツカー

クラブ秋田大館支部

われら サークル仲間

No.9

さえあれば練習しています。「よく私たちが暴走族だという方がいますが、私たちは常に交通ルールを守り安全運転をモットーとしています。」と話す事務局の山本朗さん。

「レース中の緊迫感、ゴールしたときの満足感、そして仲間たちと車の話をしているときが一番楽しい。今年仲間をもっと増やし、大館でラリー大会を開きたい」と会員の皆さんは意気込んでいました。



入会したい方は山本朗さんへ

(☎42-0521 石戸谷タイヤ内)

❖広報などの配布について❖

市では、広報やごみ収集のお知らせ、市の各種行事案内、県議会だよりなど市や県で発行する文書は、行政協力員のご協力を得て配布しています。

先日、一部の地元新聞に「広報と一緒にある団体の文書が配布されたが、市が特定団体の文書を回覧するのはおかしいのではないか」という記事が掲載されました。市では、指摘の特定団体から文書の配布を依頼されたこともなく、また行政協力員に配布をお願いしたこともありません。その文書が、どうして回覧で一部の地域だけに配布されたのかはわかりませんが、今後とも市の文書配布については十分注意をしていきたいと思っておりますので、皆様のご協力もお願いします。

また「広報の配布が遅くなった」という苦情も市民の皆さんからいただいております。市ではできるだけ早く全市に配布するよう努力していますが、皆様のご家庭でも早め早めに回してくださるようお願いいたします。

(市総務課)